

ふくおか 県学歯

2022.1 No.95



糸島平野より雷山方面を臨む

一般社団法人 福岡県学校歯科医会
<https://fk-gakusi.jp>

Contents

○巻 頭 言	平瀬 久義	1
○第26回福岡県学校歯科保健研究大会		2
実践活動報告①	宍戸 直子	3
実践活動報告②	有吉 直子	4
基調講演	永江 正廣	4
特別講演	川本 強	5
○展示コーナーから	白木 博繁	6
○令和3年度 第8回福岡県よい歯の学校表彰		6
○第71回全国学校歯科医協議会	菅 義浩	7
○歯 鏡	加来 弘志	7
○令和3年度 福岡県若年教員研修（養護教諭）報告	永江 正廣	8
○withコロナを考慮した歯・口の健康づくりの考察	白木 博繁	9
○表 彰		10
○令和3年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」		11～16
○郡市区だより		
豊前築上	平良 祥	17
直 方	久原佐知子	18
宗 像	入江 祐彰	19
筑 紫	幡地 千秀	20
朝 倉	古賀 祥朗	21
八女筑後	雨野 晃三	22
柳川山門	梶島 俊作	23
大牟田	和田 浩利	24
小 倉	上田 雄造	25
戸 畑	重藤 弘之	26
八 幡	楠本 俊司	27
○事業報告・会務報告		28
○物故会員、公告、予告、編集後記		29

巻 頭 言

会 長 平 瀬 久 義



新しい年を迎え、皆様すこやかにおすごしのことと存じます。
今年は、新型コロナウイルス感染症はどうなるのでしょうか。
はやく収束してほしいものです。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に対し、これまで経験したことがない日常生活の変化を経験し、学校では感染症対策と教育活動の両立が求められてきました。その結果「三つの密」を避け、マスクの着用、手洗い・手指の消毒などの新しい生活様式を子どもたちは経験してきました。自宅にいる時間が今まで以上に長くなり生活のリズムがくずれ、結果生活習慣の乱れが危惧されています。特に間食については増加していると考えられ、う蝕や歯周疾患の罹患率増加が懸念されています。

また、マスク着用や行動の制約といった生活のリズムの変化により、様々なストレスを感じている子どもは増加し、そのことが口腔乾燥、口腔習癖などの口腔内の環境悪化にも影響していると思われます。

口腔内環境の維持増進のためには、学校歯科保健活動において子どもたちに口腔衛生習慣の重要性を再認識してもらい、自律的健康づくりを意識した指導が必要です。

歯・口の健康づくりは、食生活や歯みがきなどの生活基盤である家庭との関連が重要であり、学校と家庭がより連携を深め取り組んでいただきたいと思います。その連携の要となっていたいただくのは学校歯科医であり、さらにその役割は重要になります。会員の先生方には、お力添えよろしくお願いいたします。

会長に就任してはや7ヶ月程になりますが、皆様にお約束したことを達成しようと取り組んでいます。今期役員・委員の先生方には各加盟団体や県学校歯科医会で頑張っておられるなるべく若い先生に、新しい発想と気概をもって取り組んでいただくようお願いし、就任いただきました。毎週土曜日を中心にプライベートを犠牲にし、一所懸命頑張ってください頭の下がる思いです。

会務の執行については、時間はかかりますが大臣表彰や叙勲等被表彰者の選考、会長交際費の透明化、委員会活動の決定など、独断ではなくできるだけ役員・委員の皆様の意見を聞きながら決めていきます。

この数年会員減少が進行しているなか、新執行部において次の3項目（経営体質改善、会員増強策、定款規則改定の検討）を重点対策項目として「活性化策定臨時委員会」とデジタル化活用の検討として「デジタル化推進臨時委員会」を立ち上げました。デジタル化推進臨時委員会では、次の2項目（対外的広報活動のデジタル化推進）（リモート研修の推進検討）について検討をお願いしているところです。

今が福岡県学校歯科医会にとってとても大切な時期であり、皆様の協力なしでは、進めていくことはできません。皆様のご理解とご協力を心からお願いすると共にご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第26回福岡県学校歯科保健研究大会 開催

理事 安 藤 徹



令和3年11月20日（土）、福岡県歯科医師会館5階大ホールにて第26回福岡県学校歯科保健研究大会が開催された。本年度の研究大会では新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、対面方式と録画方式によるWeb配信の開催となった。

当日は、福岡県教育委員会、日本学校歯科医会、福岡県歯科医師会をはじめ多数の来賓の方々、学校歯科医、養護教諭、学校栄養士、歯科衛生士、学校教育関係者にご出席いただき、録画配信視聴者も併せて参加者は221名となった。



本年度はコロナ禍であることを踏まえ、表彰式は受賞者の発表のみとなった。団体表彰については、各加盟団体とも活動を自粛されており本年度は該当なしとなった。また、よい歯の学校表彰として県内4校の学校・学校歯科医が表彰され、歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクールならびに健康啓発標語コンクールの優秀作品に対しては、福岡県学校歯科医会会長賞ならびに福岡県教育委員会賞として12名の児童・生徒が表彰された。

引き続き「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」～望ましい生活習慣の育成と生きぬく力～の主題の基に小学校2校による実践活動報告並びに、基調講演と特別講演が行われた。

展示コーナーでは当会をはじめ、日本学校歯科医会、福岡県歯科衛生士会、その他の企業のブースが設けられた。本研究大会では、生涯にわたる健康の保持増進に向けた様々な取り組みを知ることができます。また来年も開催予定ですので、皆様の参加をこころよりお待ちしております。

テーマ「歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して」

～望ましい生活習慣の育成と生きぬく力～

実践活動報告①

「歯と口の健康づくりを通して、生活習慣を見直し
健康な心と体をめざす子どもの育成」

北九州市立清水小学校 養護教諭 穴戸 直子



清水小学校は、北九州市小倉北区にあり、現在の児童数は729名だが、近隣にはマンションが増え児童数は年々増加している。

歯科健康診断の結果より「むし歯のない」児童の割合は、令和元年から令和2年にかけて4.7%増加しているが、令和2年で61.8%と全国1位の新潟市の94.1%からは大きく水をあけられている。

「生活・安全についてのアンケート」によると、コロナ禍で生活のリズムが乱れ1日3回歯みがきをする児童の低下が見られたが、学校の再開などで徐々に回復してきている。ただ31%の実施とまだまだ低い現状である。

学校での具体的な取り組みとして

まず、新年度に健康目標を立て1年間児童・担任で協力して実行する。

保健委員会活動として

委員の児童が中心となり図画・ポスター・標語を集め、委員会の児童たちで審査・表彰を行い、歯・口への興味を集めた。

「いい歯の日」にあわせて歯のクイズを作ったり、児童がはみがきレンジャーに扮して低学年に歯みがき指導を行っている。時には保護者も児童と一緒に歯みがき教室に参加している。それらの様子はポスターや新聞を作製し、後からも活動を見直せるようにしている。又、給食委員会とおやつについてのアンケートをとったり、図書委員会とは、歯の本のコーナーを設置するなど、他の委員会との連携も図っている。

学校歯科医には、全国小学校歯みがき大会の日

みがき指導を行ってもらったり、衛生士さんに質問に答えてもらっている。更に、職員研修も行ってもらい、教職員の歯科の知識の向上も図っている。

学校保健委員会も年3回実施し、他の校医の先生も含め意見交換を行っている。

保健指導としては、令和元年は5年生が「全国小学生歯みがき大会」に参加し、1.3年生は養護教諭による指導を、令和2年はコロナ禍のため全学級での「校内歯みがき大会」を行い、1～3年生はDVDを使用した第1大臼歯の歯みがき方法を学習、4～6年生は前回までの歯みがき大会を参考に学習を行った。その学習の後に、学級だより・ほけんだよりを作製し、家庭への情報発信としている。

PTAから児童への学校名入りの歯ブラシのプレゼントがあり、児童の歯みがきへのモチベーションアップに繋がった。

これらの活動の成果として、永久歯のむし歯経験者率が年々低下し、北九州市から優良校として表彰された。ただ課題としては、コロナ禍で低下した治療率の増加、歯と口の健康の二極化への対応を挙げられ、これらの改善のため、保護者を巻き込んだ個別指導の必要性を訴えて結びとされた。



実践活動報告②

「食の大切さを学び、自らの生活に生かす子どもの育成」

～学び（学ぼう！）と実践（やってみよう！）を取り入れた食の指導の充実を通して～

鞍手町立古月小学校 養護教諭 有吉 直子



令和元年・2年度一般社団法人福岡県学校歯科医会委嘱「歯・口の健康づくり推進事業」、福岡県学校給食会委嘱「鞍手地区学校給食会研究指定事業」の研究指定を受け、学校・地域と連携し、望ましい食習慣の形成、歯と口の健康づくりの取り組みの主題を「食育」として行った。

食育には6つの視点があり、その1つである「心身の健康」の中で、特に「歯と口の健康」という部分に焦点をあて実践した。

学校がある鞍手町は主に農業が主産業である為、それらの作物を通して食の大切さを学び（学ぼう！）、自らの生活に生かす（やってみよう！）という風に学びと実践を取り入れる方式で、本活動の主題・副主題の意味を理解し学校のみならず家庭・地域との連携を図って行った。

1年生・4年生と学年別に活動目標を変え教具を工夫し各々で考えさせ、まとめて発表させるという方式をとったり、「歯磨き指導」「歯磨き大会」の実施、「ポスター・標語」の作成、「食育便り」の配布、改めてイリコ大切さを再認識させる「タッチ・オアシス・イリコ運動」なども取り入れ本活動を行った。



基調講演

「Go to the School !」

一般社団法人福岡県学校歯科医会
副会長 永江 正廣



昭和56年に学校の協力医になり、その当時12才児のう歯のある者の割合は92.63%もあった。ちなみに令和元年度は31.76%、令和2年度は29.44%である。昭和60年に学校歯科医となり、給食後のハミガキ、洗口場の整備をした。しかし、乳臼歯部のカリエスによる残根状態の子が多く、その子達の将来が不安になる。そのためには、むし歯の治療とともに、考え方の治療も必要だと考えた。そこで、町広報誌で啓発するもなかなかうまくいかなかったため、授業時間をもらい咬むことの重要性を説明したり、朝礼でハミガキ指導、給食指導を行い普及させていった。

そこでのまとめは、学校歯科医は、むし歯、歯肉炎、不正咬合や外傷などを減らすためには、自分の考えだけで推進しても目的は達成できない。児童に歯の大切さを認識させるためにいろんな方法や考え方を学ばせる、児童自身がその有用性、有益性を理解して自分の大切な歯を守るために、学んだことを実行できるように教育を手伝うサポーターでなければならないということだ。

歯科保健の推進はなかなかうまくいかないが、生徒のみならず、教職員、保護者、学校関係者にも共通の認識を持ってもらうことが大切で、そこで連携ということが必要になってくる。

最後に、子供の成長には歯科保健にこそ生きる原動力が潜んでいるのであろうから、学校歯科医は子供たちがたくましい子、かしこい子、やさしい子に育っていくために学校へ出向いて子供たちを見守ろう。

特別講演

『歯・口の健康づくり、過去・現在・未来』

公益社団法人日本学校歯科医会
会長 川本 強



過去、学校歯科を創った人々。明治8年医科歯科免許制度が開始された。歯科医師の資格取得者数は年間20～30人程度だった。明治23年に高山紀齋によって、日本で最初の歯科医学校である高山歯科医学校（現在の東京歯科大学）が東京に創設

し、これを契機に歯科医学が発展した。

明治24年、三重県の県立病院に赴任していた歯科医師の直村善五郎は、津市の学校の校長に依頼を受け県下3校の児童の歯科検診を行なった。翌年その結果を歯科雑誌に報告。これが歯科医師による初めての学童検診並びにう蝕統計報告だった。昭和22年憲法26条により「教育基本法」（日本国憲法に則り、新しい日本の教育の基本を確立するために制定された法律）が制定された。

現在、日学歯会員数は令和3年8月現在24,218人。活動として「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの普及啓発等の、健康保健指導が行われている。

未来、アクティブラーニングによる教育の重要性の話があった。最後に、今後の特別支援学校の歯科健診の援助システムのあり方について説明があり、「先生の夢」として講演を締め括られた。

◇参加者の声（アンケートからの抜粋）◇

☆学校教育関係☆

○コロナ禍で大会運営も大変だったと思います。とても勉強になりました。ありがとうございます。

☆養護教諭☆

- 他の学校の取組を知ったり、学校歯科医からの考え等を聞くことができとても参考になりました。
- 貴重なお話を聞かせていただき、とても勉強になりました。養護教諭として学んだことを実践していきたいです。展示コーナーでは直接説明を聞いて分かりやすく良かったです。また参加したいと思います。
- 養護教諭の発表、歯科医の講演、普段聞くことが出来ないお話を聞くことが出来充実した時間を過ごすことができました。毎年楽しみにしております。
- オンラインで視聴させていただきました。時間と場所にとらわれることなく自分のペースで見ることができ、とても参加しやすかったです。コロナが終息してもこの参加方法を取ってもらえれば、たくさんの人が参加できるのではと思いました。

☆学校歯科医（含園医）☆

- 人が少なくてゆったりと話を聞くことができよかった。県学歯のブースはよかった。アンケート調査など行い、よい考えだと思った。
- 学校ごとの実践活動報告は非常に参考になります。
- 他の学校での学校歯科保健活動や指導法をお教えいただきありがとうございました。参考にさせていただきます。
- 学校の取組方が多岐にわたり、とても参考になりました。今回参考にコロナ収束後は学年ごとの講演（健康教室）の再開をして、体験型も加えていきたいと思っています。

☆歯科衛生士☆

- コロナ禍における子ども達の口の中について、非常に心配している。どのように学校で対応したら良いか歯科医の考えを聞きたかった。永江先生の講話は、元気になるお話だった。感謝です。

展示コーナーから

理事 白 木 博 繁

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響も有り、例年とは違い参加者は少なく、展示コーナーでもやはり影響は大きかったと感じました。しかしながら、出展者の皆様は明るく対応され、出展者同士の交流も有ったと感じました。

withコロナに向けたそれぞれの企業の取り組みなども話題になって、来年度はまた工夫が必要だと感じました。

県学歯コーナーではフッ化物の応用方法に着目し、フッ化物洗口液、フッ化物配合歯磨剤、フッ化物含有デンタルガム（ポスカF）について普及指導委員会より展示及び、フッ化物洗口体験が行われました。それぞれの特徴について説明を行い、アンケート調査も実施しました。

キシリトールガムのロッテでは、子供用のガムが置かれていた。口腔機能の発達不全やオーラルフレイルなどを念頭に「噛むこと」に着目した研究や製品開発が行われている事を説明していただきました。

福岡県茶業振興推進協議会のコーナーでは美味しい八女茶を試飲させていただきました。歯や口の健康にも有用で、食後にお茶を飲むことはおすすめです。

福岡県歯科衛生士会のコーナーではwithコロナにあわせた歯みがき指導について非常に参考になりました。子どもたちの心をつかむ指導方法。福岡県歯科衛生士会の先生たちの積み重ねてきた経験と実績が良い結果を生み出していると感じました。他にも多くの出展者の協力がありました。この場を借りて御礼申し上げます。



令和3年度 第8回福岡県よい歯の学校表彰

【よい歯の学校表彰 選出基準】

「よい歯の学校表彰」選出につきましては、以下の事項を念頭に決定しました。

- ①福岡県下小中学校において、令和2年度の歯科健康診断データがDMFT 0.5以下で、カリエスフリー率が高い学校
- ②学校規模（小規模校、中規模校、大規模校）を考慮
- ③健診データは、提出いただいた「福岡県学校歯科医会 歯・口の健康診断結果統計調査報告書」のデータを使用

第8回福岡県よい歯の学校表彰の受賞校及び担当学校歯科医

飯塚市立飯塚鎮西中学校	学校歯科医	山近紳一郎 先生
宗像市立赤間西小学校	学校歯科医	大賀 信之 先生
	学校歯科医	出光 正裕 先生
筑紫野市立天拝中学校	学校歯科医	萩原 俊史 先生
久留米市立善導寺小学校	学校歯科医	日野 喜彦 先生



第 71 回全国学校歯科医協議会

常務理事 菅 義 浩

令和3年10月28日（木）15時40分より（一社）岡山県歯科医師会の主催にて第71回全国学校歯科医協議会がWeb開催された。岡山県歯科医師会小見山副会長による開会の辞、及び西岡会長の挨拶により幕を開けた。

まず、国立モンゴル医科・科学大学歯学部 岡崎好秀 客員教授より「子どもの口はふしぎがいっぱい」と題して、講演があった。子供たちのう蝕は減少してきているが、家庭環境や生活習慣の変遷により、口腔内における様々な疾患やその予備軍が内在している点を学校歯科医として、より注意、精査が必要だと感じた。

続いて、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野 森田学 教授より「大学生の歯・口の健康に関わる要因」と題して、講演が行われた。大学生の歯科保健に関するデータは少ないため、学校歯科医の管轄を離れた大人の入り口にい



る大学生の口腔内の現状や問題点を考察しており、学校歯科医として、今以上に未来への口腔指導の重要性を再認識させられた。

最後に木村副会長の閉会の辞により約2時間半に及ぶ非常に有益な協議会を終えた。

歯 鏡

環 境 を 作 る

常務理事 加 来 弘 志

新型コロナウイルス感染拡大が始まってやがて2年が経過しようとしている。最初は低年齢層には感染しないような認識であったが、子供たちにも感染は広がった。口腔衛生の観点から、新型コロナウイルス感染症と歯周病との関連が指摘されている。ヨーロッパ歯周病学会の、新型コロナウイルス感染者を対象にした調査結果では、歯周病にかかっている人は、そうでない人に比べて、感染症による死亡リスクが8.81倍、集中治療室を要するケースが3.54倍、人工呼吸器などの補助を必要とするケースが4.57倍に及ぶという驚きの内容である。

小・中学生の2割近くが歯肉炎という福岡県のデータもあり、歯肉炎は放置すれば歯周病へとつながっていくことを考えると、コロナウイルスに限らず感染症予防のためには、児童・生徒への更なる口腔衛生指導が重要ということ、今回のコロナ禍から学ぶことの

一つかもしれない。

話は変わるが、最近読書離れに拍車がかかっている。哲学者キケロの「書物なき部屋は、魂なき肉体の如し」との箴言もあるように、書を読めば万倍もの利がある。特に若い時の読書は人間形成など様々な利がある。読書量が群を抜く中学校の先生が語っていた。「読書量が多い理由は、他校と比べ図書館の位置が違うことでした。校舎に入ると目の前に図書館があるのです。『本と出会う環境』をつくるのが大事なのです」と。

話を戻すと、感染症から児童・生徒を守るうえからも、学校の中に「口腔衛生指導と出会う環境」づくりを学校歯科医と学校が協力して考えてはどうだろう。例えば、保健室だけではなく全教室の目につくところに、簡単な口腔衛生指導を貼るなど、知恵を出しながら感染症に立ち向かっていきたいと思う。

令和3年度 福岡県若年教員研修(養護教諭)報告

副会長 永 江 正 廣

例年、福岡県教育委員会は若年教員の研修会を開催していて、対象者が教職経験1年目の養護教諭のときに、歯科保健の講師として派遣依頼が来ます。

本年は、コロナ感染予防もありオンライン講義では力が入らないと案じていましたが、10月22日にアクション福岡で対面での研修会が開催されました。

はじめに、嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所保健監（保健所長）の川原明子講師による「学校における感染症対策」についての講義があり、次に、私も久しぶりに講義「学校歯科保健の実際」を務めました。スクリーニングとしての定期健康診断の意義、事後措置、CO・GOなどの保健教育、PTA、家庭、学校歯科医とかかりつけ歯科医について、健診データの集計と統計調査のお願いに関して県学校歯科医会のホームページを利用して頂きたいこと、外傷・児童虐待への対応、そして学校保健委員会の開催と活用について説明しました。

その後、（一社）福岡県歯科衛生士会の伊豫雅子講師による、学校現場でのハミガキ指導の実際の講義と、学年に応じた、数々の手作り媒体の展



示紹介がありました。38名の県内の各小中高等学校と特別支援学校の若き先生は、非常に熱心な聴講でした。

最後に、小学1年生の第一大臼歯のブラッシング指導についての質問もあり、伊豫講師と二人でその意欲に応えました。それは、必要な内容のスライドの前に、食生活と身体の退化について、また6～7歳児のセファロ写真を見せて説明して、外から見えるものだけで判断するのではなく、将来に向けた身体の発達と保健教育の重要性について力説し、次世代の日本を担える子供を育てようの言葉が伝わった瞬間でした。



with コロナを考慮した歯・口の健康づくりの考察

小郡中央保育園担当歯科医 白 木 博 繁

小郡中央保育園での取り組み

小郡中央保育園は0歳児から6歳児まで、園児140名弱の子どもたちが在籍している。新型コロナウイルス感染症が発生する前、発生後の歯・口の健康づくりの変化について振り返って考えてみた。

(コロナ前)

- ・毎日「あいうべ体操」を実施。
- ・給食後の歯みがきの実施。
- ・年一回、6歳児を対象に歯垢染色液を用いた「歯みがき指導」を実施。

(令和2年4月)

- ・送り迎えの際の検温の徹底。
- ・毎日「あいうべ体操」を実施、声を出さないよう指導
- ・食後の歯みがきは、密を避けるよう指導。合わせて石鹸での手洗いの重要性について指導。
- ・熱中症の可能性も考え、屋外ではソーシャルディスタンスを取りマスクを外すことも考えてもらう。
- ・教室の換気を十分に行うことを指導。
- ・「歯みがき指導」は感染のリスク等を考え中止。

(令和3年1月)

- ・検温の徹底
- ・「あいうべ体操」は声を出さずに実施。
- ・手洗いの徹底、アルコール消毒の徹底、三密を避ける。遊具のアルコール消毒の徹底。
- ・園内での歯みがきを中止、フッ化物配合の歯磨剤での家庭内での歯みがきを指導。毎日仕上げみがきを実施してもらう。
- ・園での給食後に、コップ一杯のお茶をゆっくり飲むよう指導（食物残渣を洗い流す目的）。
- ・マスクは可能なかぎり着用してもらう。熱中症に関しては、水分補給を十分に行う事で対応。
- ・教室の換気の徹底。
- ・「歯みがき指導」は中止。

小郡市では幼稚園、保育園でクラスターが発生したため、より厳重な対応をお願いした。

歯科健診時の子どもたちの口腔内状況の変化と考察

当初は、新型コロナウイルス感染症発生が、子どもたちの口腔内へ大きな悪影響をもたらすのでは無いかと危惧していた。小郡中央保育園の場合、クラスによる差が比較的大きかった。これは、保護者同士の繋がりによるものではないかと予測している。あるクラスでは多くの子どもがシーラント処置をされていた。しかしながら、シーラントを行った事で口腔内状態が良くなるわけではなく、

充填物の破折や脱離も多く、そこを起点にカリエスが発生しているケースが多く見られた。処置をしてもらった事での安心感から家庭でのケアが不足したのでは？と感じた。他のクラスではほぼカリエスフリーであった。毎日のフッ化物配合歯磨剤の使用は有効であると実感した。また、食後のお茶を飲むことを実施し始めてからは、明らかに口腔清掃状態が良好になった。これは、コロナ前よりも良くなったと感じた。

これらの事より家庭でのフッ化物配合歯磨剤を使用しての仕上げみがき。食後にコップ一杯のお茶をゆっくり飲む事。など比較的取り組みやすい対応でも子どもたちの「歯・口の健康づくり」に寄与することが出来るのではないかと考える。

幼稚園、保育園、学校の現場では、大人たちがよく話し合い、お互いの理解を深め、歯科医がエビデンスを盾に押し付ける指導より、納得し合える指導が効果的であり重要だと考える。



小郡中央保育園



コロナ前に行っていた「歯みがき指導」と「あいうべ体操指導」の様子

表彰おめでとうございます

◎文部科学大臣表彰

日 時 令和3年10月28日(木)
令和3年度全国学校保健・安全研究大会



辻 利 貞
(八 幡)

◎福岡県学校保健功労者

日 時 令和3年11月25日(木)
場 所 福岡リーセントホテル 舞鶴の間



岩 永 典 人
(京 都)



郡 谷 利 浩
(京 都)



柿 恭 範
(京 都)



柿 祥 宏
(京 都)



佐 藤 義 輝
(京 都)



杉 本 直 樹
(京 都)



福 田 潔
(直 方)



鴨 川 卓 也
(直 方)



清 水 共 幸
(直 方)



佐々木 純 二
(飯 塚)



新 原 秀 俊
(宗 像)



間世田 勇 作
(宗 像)



福 岡 綱 二 郎
(柏 屋)



石 井 香
(糸 島)



大 藪 辰 彦
(筑 紫)



増 田 純 二
(筑 紫)



永 尾 徳 彦
(久 留 米)



秋 山 達 也
(八 女 筑 後)



今 里 憲 弘
(大 川 三 潞)



中 村 清 人
(大 牟 田)



吉 田 亨
(大 牟 田)



池 田 一 彦
(小 倉)

◎第60回全日本学校歯科保健優良校

筑 紫 春日市立春日北小学校 (奨励賞)

令和3年度「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」審査結果

図画・ポスターコンクール 幼稚園

会長賞	飯塚	ひまわり幼稚園	5歳	うちやま	とし
入賞	直方	浄福寺幼稚園	6歳	おかべ	あつはる
	朝倉	甘木双葉幼稚園	6歳	井手	陽
	門司	鎮西保育園	5歳	いわさき	すずな

図画・ポスターコンクール 小学校低学年

会長賞	朝倉	蜷城小学校	2年	くが	みう
教育委員会賞	宗像	南郷小学校	2年	ふるた	あみ
優秀賞	飯塚	鯉田小学校	1年	まつだ	なつか
優良賞	門司	門司海青小学校	1年	高野	登功
佳作	京都	犀川小学校	3年	進志	斗
佳作	豊前築上	築城小学校	2年	吉留	幸
佳作	久留米	東国分小学校	2年	荒木	美結
入賞	田川	伊方小学校	3年	鈴木	莉杏
	直方	福地小学校	2年	永富	ももか
	粕屋	志免西小学校	1年	曲書	桐
	筑紫	春日小学校	3年	山本	この花
	小郡三井	本郷小学校	3年	本田	龍之介
	浮羽	大石小学校	1年	くりた	まお
	八女筑後	下妻小学校	1年	石丸	天翔
	大川三潆	田口小学校	2年	牟田	りくと
	柳川山門	六合小学校	1年	中富	媛慧
	大牟田	平原小学校	3年	坂口	竜生
	小倉	足立小学校	1年	浦中	颯

図画・ポスターコンクール 小学校高学年

会長賞	大牟田	天領小学校	6年	安陪	華子
教育委員会賞	田川	弓削田小学校	6年	豆田	舞桜
優秀賞	京都	伊良原小学校	6年	古橋	永麗佳
優良賞	朝倉	三奈木小学校	6年	陳蔵	倪
佳作	飯塚	立岩小学校	6年	花元	美月
佳作	小郡三井	三国小学校	6年	谷希	美
佳作	大川三潆	木佐木小学校	6年	長尾	はるひ
入賞	豊前築上	西角田小学校	6年	松本	晴弥
	宗像	河東小学校	6年	藤川	こもも
	粕屋	志免西小学校	6年	西村	あかり
	筑紫	二日市小学校	6年	中島	瑠菜
	浮羽	福富小学校	6年	手島	雄大
	久留米	船越小学校	6年	上村	しほ
	柳川山門	藤吉小学校	6年	下川	瑞喜
	門司	門司中央小学校	5年	岩本	来海
	小倉	葛原小学校	5年	彦坂	隼人
	八幡	高槻小学校	6年	曳村	杏奈

図画・ポスターコンクール 中学生

会長賞	宗像	中央中学校	2年	中山	万生
教育委員会賞	八女筑後	筑後中学校	2年	坂本	佑季
優秀賞	飯塚	飯塚第一中学校	2年	犬丸	和香

優良賞	粕屋	古賀北中学校	2年	瀨上	萌々香
佳作	筑紫	平野中学校	2年	山口	さら
佳作	小倉	東谷中学校	2年	山本	なな
佳作	八幡	大蔵中学校	3年	福澤	釉
入賞	京都	勝山中学校	3年	小林	のどか
	田川	糸田中学校	3年	吉開	瑠衣
	朝倉	南陵中学校	3年	小島	ひなた
	大牟田	明光学園中学校	2年	廣重	ナツ子
	門司	緑丘中学校	3年	横地	絵衣瑠
	若松	石峯中学校	2年	福井	茜
	遠賀中間	水巻中学校	3年	田中	梨瑚

図画・ポスターコンクール 高等学校

会長賞	八女筑後	輝翔館中等教育学校	5年	三上	遥
入賞	小倉	小倉工業高等学校	3年	原田	歩実

図画・ポスターコンクール 特別支援学校

会長賞	豊前築上	築城特別支援学校 小学部	1年	金澤	一輝
教育委員会賞	小郡三井	小郡特別支援学校	6年	吉光	有人
優秀賞	久留米	久留米特別支援学校 中学部	1年	田島	愛佳佳

標語

会長賞	八女筑後	羽犬塚小学校	4年	川浪	大誠
教育委員会賞	小倉	清水小学校	6年	東	爽夏
優秀賞	豊前築上	南吉富小学校	1年	三吉	陸勇己
優良賞	若松	石峯中学校	3年	江口	悠斗
入賞	京都	白川小学校	6年	濱口	芽依
	田川	真木小学校	4年	白川	璃愛
	直方	福地小学校	5年	園田	晴輝
	飯塚	庄内小学校	6年	児玉	崇弘
	宗像	河東小学校	6年	甲木	晴
	筑紫	那珂川中学校	2年	江原	澄空
	朝倉	中牟田小学校	4年	倉掛	妃七
	門司	松ヶ江北小学校	6年	合谷	日菜奈
	八幡	上津役小学校	6年	新	仁志
	遠賀中間	岡垣中学校	3年	藤田	千聡



令和3年度 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール総評

福岡県教育センター 産業・情報教育部 情報教育班 主任指導主事 井上 準一 先生

審査員 略歴

福岡県教育センター

産業・情報教育部 情報教育班 主任指導主事
井上 準一

平成5年4月～ 中間市立中間東中学校 勤務
平成7年4月～ 遠賀町立遠賀南中学校 勤務
平成16年4月～ 芦屋町立芦屋中学校 勤務
平成23年4月～ 鞍手町立鞍手北中学校 勤務
平成27年4月～ 鞍手町立鞍手中学校 勤務
平成30年4月～ 福岡県教育センター 勤務

【総 評】

歯と口の健康について多くの人たちに考えてもらいたいと思う気持ちが伝わってくる多くの素晴らしい作品に出会えました。元気よく大きな口を開け歯磨きをする姿やその大切さを伝えようとするメッセージが込められた作品、丁寧に時間をかけて表現された作品など、鑑賞していて楽しさを感じさせる作品ばかりでした。

○幼稚園の部

口の中がきれいになって輝く歯と満面の笑顔がとてよく描けていました。おいしい食事の後に歯磨きをしている様子がとても生き生きと表現されています。このポスターを見た友達も、歯磨きをもっとしたくなることでしょ。表情だけで何を伝えようとしているのかがよくわかる作品となっていて、とても素晴らしいと感じます。

○小学校低学年の部

白くきれいになった歯が輝いて、歯磨きの大切さが伝わる素敵な作品ばかりです。画面いっぱいに描かれた表情がとても印象的です。また、使っている画材はそれぞれ違いますが、色の組み合わせや重ね具合が生き生きとした様子を表現できていました。

○小学校高学年の部

笑顔あふれる楽しい雰囲気や歯の健康について考えることができる作品になっています。またどの作品も文字と絵のバランスを考え、メッセージがしっかり伝わるよう工夫されている点も素晴らしいと思います。さらに背景や文字の色にもこだわって制作するととても良い作品になるでしょう。

○中学生の部

さすが中学生と思わせる細部までこだわった彩色や多様なアイディアは審査をしていてとてもワクワクするものとなりました。どの作品も明るいテーマや個性あふれる絵柄で歯の健康について考えるためのメッセージが伝わってきました。さらにポスターの目的である「注目を集めること」を意識して配色を考えていくと、より見た人に訴えかける作品になっていくでしょう。

○高等学校の部

「一緒に歯磨きどうぞ」というキャッチコピーが高校生らしい一捻りあるメッセージとなって作品を見た人たちに考えさせるものになっています。それはテーブルの木目を丁寧に描き込むことや手の正確な描写があつてのものだと思います。高いレベルでまとまった作品はさすが高校生です。

○特別支援学校の部

毎日の歯磨きが習慣として定着している様子が描かれた表情からうかがえます。それは大きな白い歯や輝く白い歯からも伝わってきます。また、描きたいものを大胆に表現することができており、コラージュやパッチ、スタンプなどの技法を取り入れ、変化を与えているのが素晴らしいと思います。

【作品審査を終えて】

依然収まらないコロナ禍の中で、アイディアあふれる多くの作品が出品されていて、とても楽しく審査をさせていただきました。すべての作品に共通して歯と口の健康について観る人へ伝えようという強い思いが、歯ブラシを握る人物の表情や擬人化された歯、工夫を凝らしたキャッチコピーなどから感じられました。また、小・中・高と学齢が上がっていくにしたがって表現力の高まりが感じられ、よりポスターとしての完成度が増えています。

今後のアドバイスです。ポスターは「見る人に何を伝えたいか」がとても大切になります。そのため、中心となる絵柄をどのように表現すると良いかやキャッチコピーの文字のデザインを工夫することなどが効果的です。特に文字については「形」や「大きさ」「色」「配置」について工夫して描くことでメッセージがより明確に伝わります。ぜひ文字の見えやすさについても意識してください。

最後に、これからも描きたいものや人に訴えたい事柄を自由に表現して作品を作ってほしいと思います。来年度のポスターを描くときに、この講評が少しでも参考になれば幸いです。

令和3年度
歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール受賞者

会長賞



中学生
宗像 中央中学校2年
中山 万生



高校生
八女筑後 輝翔館中等教育学校5年
三上 遥



特別支援学校
豊前築上 築城特別支援学校小学部1年
金澤 一輝



幼稚園
飯塚 ひまわり幼稚園 5歳
うちやまとし



小学校低学年
朝倉 蟻城小学校2年
くが みう



小学校高学年
大牟田 天領小学校6年
安陪 華子

教育委員会賞



小学校高学年

田川 弓削田小学校6年
豆田 舞桜



中学生

八女筑後 筑後中学校2年
坂本 佑季



小学校低学年

宗像 南郷小学校2年
ふるた あみ



特別支援学校

小郡三井 小郡特別支援学校6年
吉光 有人

優秀賞



飯塚 飯塚第一中学校2年

中学生

犬丸 和香



小学校低学年

飯塚 鯉田小学校1年
まつだ なつか



小学校高学年

京都 伊良原小学校6年
古橋 永麗佳



特別支援学校

久留米 久留米特別支援学校 中学部1年
田島 愛惟佳

優良賞



門 司 門司海青小学校1年
高野 登功



朝 倉 三奈木小学校6年
陳 蔵倪



粕 屋 古賀北中学校2年
淵上 萌々香

佳作



京 都 犀川小学校3年
進 志斗



豊前築上 築城小学校2年
吉留 幸



久留米 東国分小学校2年
荒木 美結



大川三瀬 木佐木小学校6年
長尾 はるひ



小郡三井 三国小学校6年
谷 希美



飯 塚 立岩小学校6年
花元 美月



筑 紫 平野中学校2年
山口 さら



小 倉 東谷中学校2年
山本 なな



八 幡 大蔵中学校3年
福澤 釉

標 語

教育委員会賞

コロナでも
マスクの下は

きれいな歯

小倉 清水小学校6年

東 爽夏

会長賞

歯磨きで
みんながもらえる

金メダル

八女筑後 羽犬塚小学校4年

川浪 大誠

優良賞

歯みがきは
健康づくりの

第一歩

若松 石峯中学校3年

江口 悠斗

優秀賞

はとはぐき
ぼくのはみがき
にとうりゅう

豊前築上 南吉富小学校1年

三吉 陸勇己

コロナ禍での学校啓発活動

〈豊前築上〉平 良 祥

昨年度は新型コロナの影響でポスター審査をする広い場所もなく密の状態での審査を行うことはいかなものかという意見が多かったこと、また一部学校側からも休校の影響でカリキュラム消化が追い付かず、残念だが図画・ポスター作製など副教科に時間が取れないとの訴えがあり断腸の思いで募集自体を中止とした。

では、どのように地域啓発活動をするべきか検討を重ねた末、いわゆるご当地コミュニティラジオの「スターコーンFM」での啓発放送を行うこととなった。

40秒という限られた時間ではあるが、コロナ禍でブラッシングがより一層大切であること、歯科医院では感染対策を実施しており受診を控える必要はないということを、平日に2回繰り返し流すことで地域住民に呼びかけを行った。このラジオ啓発は大変好評で時々内容を変えながら今年度も継続している。

さて、図画・ポスター・標語審査であるが、今年度も新型コロナの影響は残っているもの



審査会：ポスターや標語の審査会の様子

の審査員のワクチン接種も完了し、学校の休校もなかったことから何とか二年ぶりに募集を再開することができた。

応募総数は900件弱となり例年の2/3程度となったのだが、「二刀流」「五輪」など時代をあらわすようなキーワードを使った標語や、切り絵をつかったポスターなど例年以上に工夫を凝らした力作が多くみられた。

審査では水墨画家で幽玄世界の掛け軸などで名高い豊前市美術展副会長の清水恵峰審査員長の下に、各学年ごとに1位から3位までの優秀作を選び、このあと地元銀行に会場をお借りして展示会を行うこととなる。

次に、当会では豊前市との協力のもと毎年1か所の小学校で5年生を対象に舌圧・口腔内細菌検査とブラッシング指導を行い、その後「あいうべ体操」を1か月続けてもらい舌圧・口腔内細菌数の変化を調べるという活動を行っている。

僅か1か月ではあるものの児童への動機付け効果が高く、舌圧・口腔内細菌数ともに良化傾向がみられる。

この事業は今年度で5年目であるが今後も継続していきたい。



展示会：優秀作は地元銀行にて展示会を行いました。

コロナ禍での図画・ポスター・標語審査会

〈直方〉久 原 佐知子

本会では、毎年6月に恒例となっている「歯と口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール表彰式」をコロナ禍の現況を考慮し、開催中止を決定いたしました。例年、多数の参加者が集い、子供たちの賑やかな声があふれますが、感染防止の観点から2年連続での中止を余儀なくされ、今年は図画・ポスター・標語審査会のみ行いました。



年々、応募数減少が懸念される中、学校も昨年には一斉休校となり、感染予防に最大限配慮しながらの学校運営は難しく、作品制作に十分な時間が確保出来ないため、作品指導も困難であると耳にします。果たして、その渦中で応募があるのか、主催者として不安でした。

特に今年はその傾向が顕著で、応募締切日が近づいても一向に増えない応募数に困惑し、募集要項を変更せざるを得ない事態に陥りました。これまで校内選定を経ておりましたが、急遽全作品を受付可能としました。

毎年、直方歯科医師会会長賞の作品を本会ポスターに掲載し、地域住民に披露しております。これは活動内容のアピールも兼ねておりますので、審査員全員（本会常務会）の合議で作品を選出いたしました。

大幅に減少した応募数の中でも、3歳から12歳までの発想力豊かな作品は、新鮮でエネルギーにあふれていました。

幼稚園部門では、画面いっぱい大きく口を開け、歯や歯ブラシを貼り絵するなどユニークなアイデアを多用し、いきいきと歯磨きをしている様子は微笑ましく、こちらまで自然と笑顔がこぼれます。特に3歳児の作品は、歯を両親と自分に見立て（永久歯2本、乳歯1本）小さな手で家族の温かさを描いたであろうと、一枚の絵を通して想像が広がりました。

小学生部門では、画面から「むし歯をなくそう」と強い意気込みを感じさせる作品や歯と口の健康の大切さを多彩な色で表現し、絵の構成を工夫した作品など、高学年になるほど観察力や描写力が高まっています。

標語も、自分の歯に関心を持ち、メッセージ性の強い作品が多く、力作ぞろいに審査は難航しました。

緊急事態宣言下でも、本コンクールの趣旨に賛同し、子供たちの創作意欲を掻き立て作品制作に携わった学校関係者の皆さまには心から感謝申し上げます。

終息の見えないコロナ禍と自粛疲れの中で、本会の事業運営も規模縮小や開催中止など難しい対応が求められています。幸いにも今年はポスター審査会を実施することが出来ましたが、次年度こそは作品応募数の増加を期待し、個性豊かな作品が届くのを楽しみに待っています。



令和3年度活動報告

〈宗像〉入 江 祐 彰

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、宗像歯科医師会でも昨年度よりほとんどの学校歯科事業が中止となりましたが、「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクール」は中止することなく、開催することが出来ました。今年度、図画・ポスターは小学校3校から計65枚、中学校2校から計15枚の合計80枚、標語は小学校1校より2点の応募がありました。コロナ禍前である令和元年度の図画・ポスターの応募作品数が、350枚近くあったことを考えると少し寂しい気もしますが、気を取り直して7月13日に図画・ポスター審査会を行いました。以前は画家の先生2名をお呼びして審査をお願いしていたのですが、応募枚数が少ないため、昨年度から学校歯科委員で審査することにしました。しかし、これがなかなか大変です。技術・表現力・アイデア・構図・バランス等、何を基準に選んだらいいのか考えれば考えるほど分からなくなってきました。皆で頭を悩ませながら、入賞作品を選考していきました。入選された作品は夏休み期間中、宗像・福津市の西日本シティ銀行4行に展示され、歯の

健康啓発に一役買ったのではないかと思います。

ただ、主力事業である歯科衛生士による小学校・幼稚園・保育園を巡回するブラッシング指導については中止を余儀なくされました。小学校での指導対象は原則1年生なのですが、もともと負担増加に伴い見直しなども検討されていた事業のため、コロナ禍が今後終息しても、今回指導が出来なかった学年の児童・生徒に対して改めて指導の場を設けることは難しいように思われます。これらの失われた世代の子供たちに対しては今後、統計調査等で注意深く見守っていく必要があると感じています。

しかし、残念な事ばかりではありません。「令和3年度福岡県よい歯の学校表彰」で、令和元年度受賞の宗像市立河東西小学校に続いて、宗像市立赤間西小学校が表彰されました。健診結果や学校歯科保健への取り組みが評価されたのだと思います。先に表彰された河東西小学校では、学校保健委員会の時に校長先生が嬉しそうに報告していたのがとても印象的でした。



図画・ポスター審査会の様子

筑紫学校歯科医会の活動報告について

〈筑紫〉 幡 地 千 秀

筑紫学校歯科医会の事業計画として

①学校歯科保健についての指導啓発の内容と現状

- 1) 学校歯科医研修会 新型コロナ対策として日本学校歯科医会のホームページの「生涯研修基礎研修会・新人研修会」の動画にて自己研修するようお願いしています。
- 2) 図画・ポスター・標語コンクールの募集、審査、展示、表彰
展示・表彰式がなくなり、優秀作品に表彰状と記念品を贈呈いたしました。図画・ポスター参加者には、歯ブラシを参加賞として提供しています。
- 3) よい歯の学童表彰 各学校男女1名ずつ表彰状を贈呈します。

②学校歯科保健関係者との相互理解を深める

- 1) 教育委員会との懇談会 昨年に続き中止となりました。
- 2) 養護教諭研究会との協議会 役員会に変更して開催しました。

③歯科衛生士による学校現場での学校歯科保健指導の実施及び行政との共催をめざす

歯科衛生士の学校現場での歯科保健指導に焦点を絞って報告します。この事業は、筑紫地区5市の小学校46校と個別に申し込まれた3校に実施もしくは実施予定です。学校では1年生から6年生の中から、1学年を選び各教育委員会に申し込み、取り纏



筑紫歯科医師会館での図画・ポスターの審査場面

めて筑紫学校歯科医会に申込書を提出します。それを受けて筑紫学校歯科医会より福岡県歯科衛生士会へ歯科保健指導を依頼し、指導後実施した歯科衛生士の経費（一人8千円）については、各学校から教育委員会へ請求します。新型コロナ感染予防のため、染め出し剤を用いた集団指導のマスクを外しての口腔内観察を中止しました。そのため歯ブラシの持参はなく、ストロー模型教材実習用の新品の歯ブラシを使用し、模型で歯みがきの仕方を説明しながら、机の上に置いてある赤く染めたストローを歯に見立てて、歯ブラシで歯垢の赤い部分を白くなるまでブラッシングする方法です。

筑紫地区の48校の12歳児の令和2年度のDMFTは0.51ですが5市で実施されている歯科衛生士による学校歯科衛生指導も貢献しているように思います。



歯科衛生士による歯みがき指導



生徒自身で歯に見立てたストローの赤色をブラッシング

コロナ禍での事業

〈朝倉〉古 賀 祥 朗

5月22日（土）に朝倉歯科医師会館にて「歯・口の健康に関する図画・ポスター」、「歯・口の健康啓発標語」の審査会を行った。2年前までは受賞作品の展示会場でもある西日本シティ銀行甘木支店で行っていたのだが、COVID-19感染拡大防止のため少しでも滞在時間を減らす目的で、審査会だけは当会館で行うことにしたものである。審査会では、例年通り当会の学校歯科委員会と朝倉市立南陵中学校の美術教諭である徳永武洋先生とで行った。

今回の参加は、幼稚園児が2園から5点、小学生が12校から2,285点、中学生が3校から75点で、合計2,365点である。参加総数はそう多くはないものの、コロナ禍が始まった昨年と比べると大きく復調し、応募締め切りまでは果たして今年度はどのくらい参加作品があるのか一抹の不安があったが杞憂であった。

（ちなみに、昨年度はあまりにも参加作品が少なく予算をあまり使わずに済んだため、デンタルミラーや探針、防護服など色々な種類のディスポの学校歯科健診用器具を大量に購入することができ、それを各学校歯科医に健診時に活用してもらった。個人的にも、あれほど大量のディスポ製品を見たのは初めてだったので、珍しい経験をさせてもらった。）

本来なら当会が毎年行っているイベント『歯ミング21 in あさくら』において、「歯・口の健康に関する図画・ポスター」、「歯・口の健康啓発標語」の優秀作品展示と

その受賞者の表彰式を行うのだが、これもまた昨年から中止となっている。なお、作品の展示は先述の西日本シティ銀行甘木支店の後は、イオン甘木店で7月2日まで開催した。



「歯・口の健康に関する図画・ポスター」、「歯・口の健康啓発標語」の作品展示作業の模様
（西日本シティ銀行）



「歯・口の健康に関する図画・ポスター」、「歯・口の健康啓発標語」の作品展示作業の模様
（イオン）

さて、最後に残念な話を。

昨年、井上文弘先生が病のため急逝されてしまった。当会に多大な功績を遺され、現役の会長のまま、である。哀悼の意を表しつつ、この稿を終わりたいと思う。

県学歯への推薦作品選考会

〈八女筑後〉雨 野 晃 三

八女筑後学校歯科医会では、「歯の衛生週間」事業の一環として、「歯と口の健康に関する・図画・ポスター・標語コンクール」の県学歯への推薦作品を決める選考会を現在自分達だけで行っています。以前は八女市内で教室を開いている絵の先生にお手伝いいただいていたようですが、ここ10数年程は、学校歯科医会の理事の先生方を中心に皆で手分けして選考しています。

何がいいかと申しますと、昨年、一昨年と、八女にある福岡県立輝翔館の岩津歩佳さんが、福岡県学校歯科医会でも、日本学校歯科医会でも高等学校の部で2年連続優秀賞という快挙に輝きました。

もちろんその子の才能なのですが、その作品を選んだのは自分達だ、とまるで自ら賞を獲ったように喜びを共感できることです。「あの作品は俺が選んだっちゃんね〜、やっぱり俺は絵を見る目があるげな。」と皆心の中でおもうとらす…（あえて八女弁で）

というわけで今年も選考会を行いました。

コロナ禍において、昨年よりさらに応募数が減り、歯科医師会館2階会議室にひろげる作品も寂しくなりましたが、それでも子供たちの力作に皆、終始にこやかな表情でした。

その中に現八女筑後歯科医師会の会長の下川聖人先生のお孫さん（小1）の絵がありました。とてもとてもかわいい絵ではありましたが、忖度を考慮しても残念ながら入賞に及びませんでした。（涙）

是非ともまた挑戦してもらいたいと八女筑後学校歯科医会一同、心より願っております。

少しでも応募作品数を増やして頂けるよう、学校歯科健診の時にでも校長先生と話をして頂く様先生方にお願ひし、今年の県学歯への推薦作品選考会を終えました。

残念ながら郡市区単位での表彰式は今年度も中止となりましたが、来年こそは必ずまた表彰式を開催し、子供たちの、あの表彰状をもらう時の、うれしさを隠し切れないけどちょっと恥ずかしいみたいな、はにかむ顔が是非ともみたいものです。



「歯と口の衛生週間」事業 図画・ポスター審査・歯の健康フェア

〈柳川山門〉 梶 島 俊 作

令和3年5月13日（木）本会2F大会議室にて図画・ポスター審査が開催された。

柳川市（旧柳川市・旧三橋町・旧大和町）・みやま市（瀬高町・山川町）の小学校児童4,223名からの応募があり、大橋圭介（柳川市教育委員会教育研究所所長）と角和広（山川町南部小学校教諭）に審査をしていただいた。多くの力作の中から、柳川山門歯科医師会会長賞（5名）福岡県南筑後保健福祉環境事務所所長賞（5名）天賞（5名）地賞（9名）人賞（13名）佳作（17名）の計54名の入選者作品を選出していただいた。

令和3年4月8日（木）第1回「歯の健康フェア」実行委員会を開催し、新型コロナウイルス感染拡大の影響下、開催の是非を検討し開催、延期、中止の決定をいつ行うか。開催延期の場合、11月開催の提案。開催可能と判断した場合の準備期間の問題。ブラッシング指導、健診は不可能ではないか。受賞図画ポスター展示のみ会館にて行うか。上位入賞者を直接表彰するのはいかがか等の協議をおこなった。

令和3年5月6日（木）第2回「歯の健康



フェア」実行委員会を開催し協議の結果、開催中止を決定した。

緊急事態宣言を受けて、イベント等の中止をよぎなくされ、本来ならば、「歯と口の衛生週間」の期間中に柳川市立図書館（あめんぼセンター）に36点を、みやま市立図書館に18点を展示する準備まで計画にしておりましたが、残念ながら行うことができませんでした。また、「歯と口の衛生週間」事業といたしまして、当会の「歯の健康フェア」において、惜しくも入選できなかった作品展示も予定しておりましたが、「歯の健康フェア」開催中止になり事業遂行することができず、残念でなりません。早く通常の日常が戻ることを願います。入選作品は地元新聞「有明新報」に掲載した。

（主） 2021年（令和3年）6月4日（金曜日） 副 柳川市立図書館 協賛 柳川市立図書館

【展示のページ】

一生を共に歩む 自分の歯

「歯と口の健康向上」図画ポスター入選者発表

柳川市立図書館 会長賞 開田 健策	柳川市立図書館 会長賞 中島 雄雄	柳川市立図書館 会長賞 内藤 理子	柳川市立図書館 会長賞 橋本 リの
柳川市立図書館 会長賞 藤 彩世	柳川市立図書館 会長賞 下川 瑞霞	柳川市立図書館 会長賞 浦上 真央	柳川市立図書館 会長賞 ふんば
柳川市立図書館 会長賞 島越 柚月	柳川市立図書館 会長賞 島添 拓人	柳川市立図書館 会長賞 柿原 翼	柳川市立図書館 会長賞 大田 虎雄

選評

令和3年6月4日～10日は、
歯と口の健康週間!
柳川山門歯科医師会

第23回学校歯科医研修会

〈大牟田〉和田 浩 利

令和3年3月23日（火）午後8時から午後9時まで、第23回学校歯科医研修会が大牟田歯科医師会館3F大ホールにて開催された。

今回はコロナ感染に対する対応に配慮し、会場での参加またはWebでの参加かどちらでも参加ができるような形態とした。会場での参加者が13名、Web参加者が8名であった。

研修会会場である大ホールには約90名程度の収容が可能であることに対して、会場参加者13名というのは、密を避けるに十分な状況であった。



永江正廣前会長による会長挨拶

河野美佐先生の司会により研修会がはじまり、永江正廣会長からの会長挨拶が行われ、（令和3年3月中旬の）現状としては大牟田市内のコロナウイルス感染者の数は少ないが、大阪、東京の状況をみると、油断できない状態である。今後、大牟田市内においてもどのような状況になるか予測はできない。日頃の診療においてはもちろんであるが、学校歯科健診を行う際にも、万全の感染症対策を行うようにというお話であった。また、コロナ感染症対策が必要な現状のなかで、会場参加とWeb参加のどちらかで参加できるという形態での研修会実施を敢行した、学校保健委員会の先生方へ、賛辞の言葉を述べられた。

続いて、委員長の高村聖一先生から、令和2年度の大牟田・高田地区統計調査報告が行われた。ほぼ、昨年同様の健診結果であった

が、歯科健診時における大きなトラブルはなく、学校歯科医側の感染対策においては、問題ないと思われたことなどの報告が行われた。しかし、担当医により健診結果のばらつきが見られたりするなどの改善点が示された。また、う蝕罹患者数の少なさにおいて毎年全国トップの結果を誇る新潟県の健診結果と大牟田市・高田町の健診結果との比較が行われ、う蝕予防に対する取り組みを今後も行っていくことなどを述べられた。



高村聖一委員長

つぎに、「新型コロナウイルス対策～学校歯科医の役割～」という演題で、再度高村聖一先生が説明を行った。帯同看護師やミラーの滅菌に関することや、個々人における感染対策、健診時において準備しておくべき器具類などについて、詳しい解説が行われた。

最後に、担当理事である筆者が「当院における外傷症例」という演題で講演を行った。内容はともかく、供覧された症例がすべて筆者の診療によるものである、という点で興味をもって頂けたようだった。

繰り返しになるが、今回の学校歯科医研修会は、感染症対策として、会場参加とWeb参加のどちらかで参加できる形式にしたことが特筆すべき点であった。研修会開催にあたりご尽力頂いた学校保健委員会の先生方及び、Web講習を担当してくれた高村聖一委員長、古閑崇先生、事務局員の森優希さんに感謝いたします。

歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語コンクールの審査選考と作品展

〈小倉〉上 田 雄 造

令和2年10月8日（木）の午後7時30分より小倉歯科医師会館において、「歯・口の健康に関する図画・ポスター」コンクールの審査会を行いました。審査には、北九州市立教育センター指導主事の春野修二先生に審査員を務めていただきました。

審査の結果、最優秀の特別支援学校、小学校、中学校、高校の計5作品を、福岡県学校歯科医会へ推薦しました。

標語の選考は、小倉歯科医師会学校歯科保健委員会で10編を選んだあと、その中から特に優れたもの1編を福岡県学校歯科医会へ推薦しました。

福岡県学校歯科医会の審査において、図画・ポスターは、会長賞、優良賞、佳作が各1作品に、残りの2作品と標語は入賞しました。

特に、会長賞の大元 崇巨さん（小倉聴覚特別支援学校小学1年）の作品は、日本学校歯科医会の審査においても入賞しました。



表彰：左より 荻谷校長 大元さん 島田会長

新型コロナ感染における緊急事態宣言の明けた令和3年3月11日（木）に小倉聴覚特別支援学校へ島田慶一会長、渡辺晃 広報委員と私の3名が訪れ、福岡県学校歯科医会会長賞をはじめ各賞を受賞した大元崇巨さんに受賞伝達を行いました。

初めての試みとして、令和3年4月2日から10日間リバーウォーク北九州において展示を行いました。日本学校歯科医会、福岡県学校歯科医会、小倉歯科医師会の各審査で受賞された図画・ポスター20作品、標語10編を展示しました。

今回の展示されたリバーウォーク北九州のキャニオンウォークは、通行人が多いことから大勢の人の目に触れたことと思います。

今回の作品展の様子は4月7日付けの朝日新聞朝刊においても大きな見出しの記事として紹介されました。



朝日新聞2021年4月7日掲載承認番号(21-1486) (無断転載禁止)

コロナ禍での学校歯科保健活動

〈戸畑〉重 藤 弘 之

戸畑歯科医師会では例年「歯・口の健康に関する図画・ポスター・標語」の募集を行い、応募作品を委員全員で審査して県学歯へ推薦をしていました。そして1学期中に小・中学校の歯科健診とフッ化物塗布を行い「良い歯の学童」を選び表彰を行ってまいりました。

しかし、ご存じの通り新型コロナウイルス感染症の「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」の影響で学校歯科健診時やフッ化物塗布時にはガウン・N95マスクとフェイスシールドの重装備でダブルミラーを駆使して対応し、汗がにじむ中のグローブ交換で児童の前で四苦八苦しながらも各学校長や養護教諭をはじめ先生方のご協力のもと無事行うことができましたが「図画・ポスター・標語」に至っては応募が全くなく審査の仕様がないう状態でした。

秋に予定されていた「良い歯の学校」表彰も表彰式の中止を余儀なくされております。

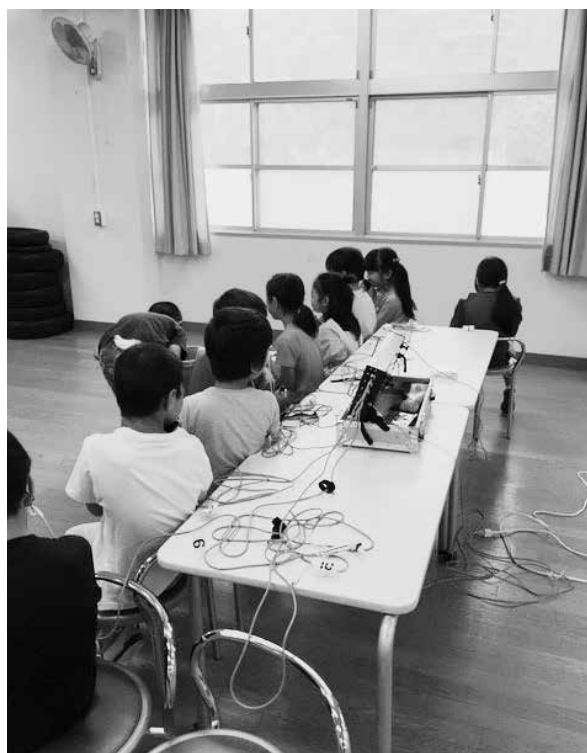
さて、人生100年時代を迎え健康寿命の延伸を考えた時にどれだけ多くの高齢者が「歯や口の問題」を抱えているのでしょうか？

高齢者だけにとどまらず、各ライフステージにおいて歯と口の健康の入口は乳幼児期に始まり、歯の萌え替わる学童期にかけての時期であると考えます。学童期に児童を取り巻く学校関係者や家族ひいては地域を含めた歯科啓発活動が今後より重要になってくると考えます。

10月には就学時健診も行われますし、今年度はまだまだ終わってはおりません。今後は活動制限の解除とともに出来ることには柔軟に対応をしていきたいと思います。

来年度は例年開催される養護教諭との懇談

会の中で児童たちの授業数が減らされる中、難しいことは承知の上で「図画・ポスター・標語」の応募を呼びかけ、是非とも作品の審査を行い、さらにガウン・N95マスクとフェイスシールドで汗まみれになりながらも皆が笑顔で健診とフッ化物塗布を行い、学校現場において先生たちも含めた啓発活動を行う所存であります。



八幡歯科医師会における学校歯科保健活動について

〈八幡〉楠 本 俊 司

八幡歯科医師会では、令和2年11月1日（日）から8日（日）の期間、イオン八幡東ショッピングセンターにて「フッ素イオン de ハッピーフェスタ」を開催した。例年はフッ化物応用の啓発活動の一環として、福岡県歯科衛生士会北支部や、八幡薬剤師会などにも協力していただき、無料歯科相談や口腔衛生指導、歯科矯正相談を行ったり、フッ化物洗口剤を実際に子供達に体験してもらうなど、例年1000名近くの来場者があったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、すべて中止とし、同会場にて「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」「歯・口の健康啓発標語コンクール」に応募いただいた図画・ポスター・標語の展示のみを行うこととなった。

また、学校歯科医を対象とした事業として、毎年学校歯科健診が始まる前の年度末に、学校歯科医研修会を行っており、令和3年3月

29日（月）に八幡歯科医師会館において、対面ならびにオンライン配信にて開催された。今年度は、学校歯科医並びに協力歯科医、来年度より新しく学校歯科医になる先生を対象に、学校歯科健康診断早見表、学校歯科医の活動指針（5版2018年改訂版）、学校歯科医ハンディノートに基づいて、本会地域保健委員会の副委員長であり、県学歯学術委員の江口明宏先生が講演を行った。今年度は、健診などの内容に大きな変更はないものの、やはり感染予防について重点をおいて、説明がなされた。

学校における歯科健診を含む健康教育活動において、学校においてもクラスターが発生するなど、感染予防に最大の注意を払うことは言うまでもないことであるが、イベント会場などで行われる歯科保健活動を、どのように進めていけばよいか、手探りの状況である。



事業報告

研究・研修事業

(1) 第71回全国学校歯科医協議会

日 時：令和3年10月28日（木）15：40～18：00
場 所：Web配信
出席者：平瀬会長・三箇副会長・永江副会長・加来常務理事
菅常務理事・石川理事・田中監事
講演Ⅰ：「子どもの口はふしぎがいっぱい」
国立モンゴル医学・科学大学
歯学部 客員教授 岡崎 好秀
講演Ⅱ：「大学生の歯・口の健康に関わる要因」
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
予防歯科学分野 教授 森田 学

実践活動報告①

「歯と口の健康づくりを通して、生活習慣を見直し健康な心と体をめざす子どもの育成」
北九州市立清水小学校 養護教諭 穴 戸 直 子

実践活動報告②

「食の大切さを学び、自らの生活に生かす子どもの育成」
～学び(学ぼう！)と実践(やってみよう！)を取り入れた食の指導の充実を通して～
鞍手町立古月小学校 養護教諭 有 吉 直 子

(2) 第26回福岡県学校歯科保健研究大会

日 時：令和3年11月20日（土）13：00～17：00
場 所：福岡県歯科医師会館 5階 大ホール
録画配信：令和3年12月1日（水）～令和3年12月27日（月）
参加者：221名（録画配信による参加者を含む）
主 題：『歯・口の健康づくりの総合的展開を目指して』
～望ましい生活習慣の育成と生きぬく力～

基 調 講 演

「Go to the School !」
一般社団法人福岡県学校歯科医会 副会長 永 江 正 廣

特 別 講 演

「歯・口の健康づくり、過去・現在・未来」
公益社団法人日本学校歯科医会 会長 川 本 強

会務報告

各種会議・会員現況報告

令和2年度

12月5日	第1回選挙管理委員会	22日	第1回理事会
12日	第4回学術委員会	22日	令和3年度定時総会（第115回） 正・副議長打合せ会
12日	第4回普及指導委員会	29日	第1回統計調査委員会
12日	第2回統計調査委員会	29日	第1回広報小委員会
12日	第4回広報委員会	6月2日	第1回選挙管理委員会
19日	第7回理事会	5日	第2回学術委員会
26日	第2回デジタル化推進臨時委員会	12日	令和3年度定時総会（第115回）
1月14日	第2回定時監査会	12日	第1回臨時理事会
16日	第5回常務理事会	19日	第2回理事会
23日	第8回理事会	7月10日	第3回常務理事会
30日	第3回デジタル化推進臨時委員会	17日	第3回理事会
2月6日	第5回学術委員会	24日	合同会議
13日	第6回常務理事会	24日	第3回学術委員会
13日	第3回統計調査委員会	24日	第2回普及指導委員会
20日	第9回理事会	24日	第2回統計調査委員会
20日	令和2年度臨時総会（第114回） 正・副議長打合せ会	24日	第2回広報委員会
27日	第4回広報小委員会	8月7日	第1回デジタル化推進臨時委員会
27日	第4回デジタル化推進臨時委員会	21日	第1回活性化策定臨時委員会
3月6日	第10回理事会	9月11日	図画・ポスター審査会
13日	令和2年度臨時総会（第114回）	11日	第4回理事会
27日	第4回統計調査委員会	25日	第3回普及指導委員会
		25日	第2回広報小委員会
		10月9日	第4回学術委員会

令和3年度

4月3日	第5回デジタル化推進臨時委員会	16日	第5回理事会
10日	第1回常務理事会	23日	第3回広報委員会
10日	第1回学術委員会	30日	第2回活性化策定臨時委員会
17日	第1回普及指導委員会	11月6日	第4回常務理事会
17日	第1回広報委員会	6日	第3回広報小委員会
5月8日	第6回デジタル化推進臨時委員会	20日	第26回福岡県学校歯科保健研究大会
15日	第2回常務理事会	27日	第4回広報委員会
15日	第1回定時監査委員会	27日	第3回活性化策定臨時委員会

会員現況報告（令和3年12月1日現在）

加盟団体名	会員数	加盟団体名	会員数
京 都	38名	久 留 米	56名
豊前築上	12	八女筑後	55
田 川	27	大川三瀧	23
直 方	39	柳川山門	24
飯 塚	62	大 牟 田	44
宗 像	61	門 司	29
粕 屋	26	小 倉	32
糸 島	6	戸 畑	5
筑 紫	84	若 松	4
朝 倉	25	八 幡	29
小郡三井	25	遠賀中間	38
浮 羽	19	合 計	763

東地区178名、西地区177名、南地区271名、北地区137名

◎公 告

○令和3年度 臨時総会（第116回）

日 時 令和4年3月12日（土）午後3時00分

場 所 福岡県歯科医師会館 5階 大ホール

物 故 会 員

自 令和3年10月23日 至 令和3年12月18日

ご冥福をお祈り致します

原 野 啓 二 66才（遠賀中間）

◎予 告

「学校歯科医生涯研修制度」基礎研修（併催 学校歯科医新任研修会）

日 時 令和4年2月5日（土）

午後2時00分～午後5時10分

場 所 福岡県歯科医師会館5階 視聴覚教室

「学校歯科医生涯研修制度」更新研修

日 時 令和4年2月5日（土）

午後5時15分～午後6時40分

場 所 福岡県歯科医師会館5階 視聴覚教室

※更新研修は東地区・北地区の先生方を対象

（更新研修は日本学校歯科医会会員で、平成24年度までに基礎研修を受講されている先生方。）

※本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を制限させていただきますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。また新型コロナウイルス感染状況によっては中止する場合がございます。

編 集 後 記

広報委員会では、ニュースレター、会報の発行やホームページの更新などの事業を担当しています。多くの予算を頂いていますので、委員一同、出来るだけ良いものという思いで活動させていただいています。経費節減についても委員会で話し合い、次年度の予算に反映させていけたらと思っています。

ホームページにつきましては、県学歯としてのオリジナリティを重視するという事で、広報委員全員で取り組ませて頂いております。まだまだ未完成な部分がありますが、随時更新し会員の皆さまにご活用していただけるよう改善していきます。

本年度の福岡県学校歯科保健研究大会は、居川前理事に準備していただいた『大会特設ホームページ』を活用し、それを引き継いだ安藤理事により、ホームページ上での参加申し込みや動画配信など新しい取り組みが行われました。

これらの取り組みは、withコロナ時代での活動にあたり必要不可欠であると思います。実際、事業を進めていくと問題点も出てきますが、少しでも前に進めていこうという気持ちで取り組んでいこうと思います。

理事 白木 博繁



可也山

県学歯会報 第95号

発行人 平瀬 久義

発行所 〒810-0041 福岡市中央区大名1丁目12-43
一般社団法人 福岡県学校歯科医会
TEL 092-714-4627 FAX 092-714-7599
E-mail k-gakusi@alpha.ocn.ne.jp
U R L <https://fk-gakusi.jp>

印刷所 〒812-0065 福岡市東区二又瀬新町12-29
(株)大里印刷センター
TEL 092-611-3118 FAX 092-629-2715
